



“カラット” 誕生の秘密

休校3日目。いよいよネタが尽きた夢色通信社の取材陣。今日は“カラット”に名付けられた思いや、「夢色通信社」を名乗る怪しげな通信社の素顔に迫ってみた。

夢色通信社が神町に引っ越してきたのは、平成29年4月1日。第1号が発行されたのは、同年4月6日。「ほぼ日刊」を通し、廃刊の危機もあったが、今日で何とか通算620号を迎える。コロナ危機を乗り越えられるかが、大きな焦点である。

“カラット”と名付けられたのは、平成29年6月2日（第38号）である。全国から公募し、予想をはるかに超える8通もの応募をいただく。夢色通信社名前選定委員会における話し合いの結果、大賞に“カラット”、準大賞に“夢の華”が選ばれる。

“カラット”には、神中から（のんびり）」という意味に、宝石の質量や金の純度を表す単位である“Carat（カラット）”をかけている。「神中生1人1人が輝くように」という意味がある。“夢の華”には、1人1人が夢と希望を持ち、きれいな華になろうという意味がある。「先生と生徒が、笑顔で過ごしていけるように」という思いが込められている。

夢色通信社より 夢色通信社は、2014年に設立されました。小さいながらも、ギネスブックに載るような世界一の通信社になることを夢見ています。モットーは「“笑顔”と“チャレンジ”」。神町中学校と専属契約を結び4年目となります。神町中学校の子どもたちの心の声をできるだけ聞き取り、皆様方の未来につながる新聞づくりを行っていきたいと考えています。よろしくお願いします。以下、我が社のスタッフをご紹介します。

ム・ネッティ社長： 夢色通信社の2代目社長。「いつでもどこでも」がモットー。機動力を武器に、世界一をめざし精力的な取材を行っている。趣味は読書とネクタイ集め。図書館や本屋さんが大好きである。



ムネランチ会長： 夢色通信社を立ち上げ、現在は会長職に退いている。大のスポーツ好きで、見るだけではなく様々な競技にチャレンジしている。夢色通信社では、主にスポーツ、芸術関係を担当している。趣味は旅行。世界各地に足を伸ばしている。

ムネじい： いつとはなしに、夢色通信社に現れるようになった。噂によると、仏教とともに日本にやってきたらしい。福沢諭吉やエジソンなど、多彩な交友関係を持っている。

ブラック・ムネティ： 自称、教育評論家。夢色通信社の論説委員となっている。超辛口のコメントに定評があるが、彼の発言に対する抗議や苦情は後を絶たない。大学3年、高校3年生、小学校6年生の息子がいる。



